

- 道路整備について地域住民の考え方がまとまりました。(P.1)
- ロボット×レスキュー2010 が開催されました ほか (P.2)
- 北野・山本地区の景観形成 (P.3)
- 発信！まちセン研究ネット⑬ ほか (P.4)

発行：神戸市立 こうべまちづくり会館

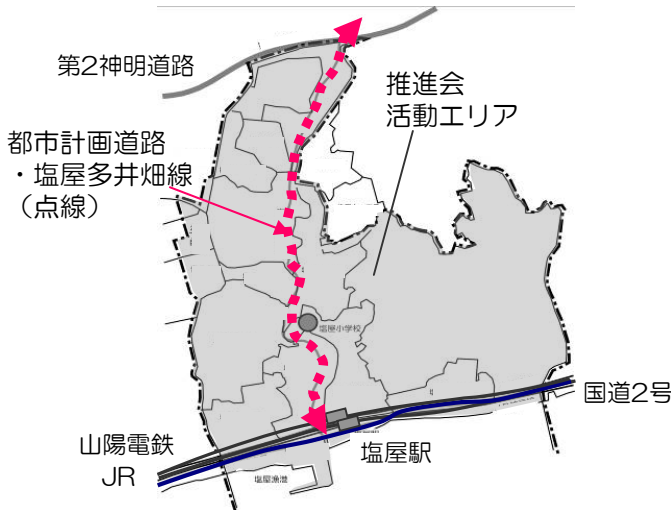
バックナンバーはこちら <http://www.kobe-toshi-seibi.or.jp/matisen/>

塩屋まちづくり推進会発 道路整備について、地域住民の考え方がまとまりました。

塩屋まちづくり推進会は、話し合いを積み重ねて、地域を縦断する都市計画道路・塩屋多井畑線（現計画幅員16m）の「地域住民による整備の考え方」をまとめ、神戸市に提案しました。

1. 塩屋のまち

塩屋は、海と山が最も近づくところ、六甲縦走路の西の入り口、旗振山の麓からまちなみが広がります。源平合戦の舞台となった歴史を持ち、明治期のエキゾチックな洋館を残し、そのすぐそばに近代的なマンションも建ち並びます。



現在では、潮の匂いが漂う塩屋漁港、その山側に国道2号とJR、山陽電車が並行して走ります。塩屋駅前には細い路地と商店街が昭和レトロの雰囲気を残し、塩屋谷川をさかのぼっていくと、兩岸の斜面地を道路と路地が地域を縫うように走り、家々が軒を重ねています。さらには山を切り開いた住宅地があり、大きなマンションも建ち並びます。

2. 塩屋まちづくり推進会

塩屋まちづくり推進会は、4500世帯が生活する約200haを活動エリアとして、既存の地域の団体をもとに2006年に発足しました。話し合いを重ねてまちづくり構想をつくり、「歴史と地域文化を生かした個性溢れる」「自然環境と調和した安心・安全な」「誇りを持って愉しく住みつけられる」まちづくりを基本目標に活動しています。

古くから塩屋に住んでいる人、塩屋の雰囲気に惹かれて移り住んだ若い人、子どもを抱えたお母さん、サラリーマン、自営業などさまざまな人々が寄り添

って暮らしています。

3. 道路を整備し、よりよい塩屋を次世代に

このたび、住民のみなさんが精力的な話し合いを重ねて、地域の課題の一つである都市計画道路・塩屋多井畑線整備の考え方がまとめられました。

初めはあまりにも違う意見が出て、はたしてまとまるのか、という雰囲気もありました。しかし現道が、通学路でありながら道幅も狭く、朝夕のラッシュ時には非常に危険である状態を、みんなが「なんとかしよう」と思い、そして「今回、必ず地域の考えをより合わせる」という推進会の粘りによって「地域住民による整備の考え方」がまとめられました。「整備の考え方」は、暮らしの安全を考えた「人」のための空間づくりや、現状の地形・景観の保全の優先、自動車等の速度の抑制を基本方針とするものです。

神戸市では、この「整備の考え方」を踏まえ、塩屋多井畑線の整備案の具体化に向けた検討を進めています。



話し合いの様子
(都市計画総局地域支援室)

★都市計画道路とは？ まちづくり用語集 vol. 2

道路は、交通のネットワークであるとともに市街地の骨格をつくり、市民生活と社会経済活動を支える都市基盤です。とりわけ都市計画道路は将来の都市像を踏まえて、予めルートや道幅が決められている基幹的な道路です。神戸市では531路線約832kmを計画決定しています。

現在、未着手(98km)事業中(12km)について、そのあり方を見直しています。

震災復興15年・レスコン10周年記念イベント ロボット×レスキュー2010 が開催されました

あの阪神・淡路大震災の時にレスキューロボットがあれば、助けられた命があるかもしれない。そんな悔しさを忘れないように、そして防災・減災の意識を社会の中に「文化」として根づかせるために、レスキューロボットコンテスト(レスコン)は始められました。今年、震災復興15年、レスコン10周年の節目を迎え、ロボットコンテストに加え「ものづくりとやさしいところ」をテーマに市民フォーラムも開かれました。

8月1日の市民フォーラムでは、未来に向けた安心で安全なまちづくりの実現のためにロボット技術に求めるものについて、様々な立場の方から講演がありました。震災復興まちづくりを進めてきた市民団体の方からは、「震災のときに住民自らが救助を試みたが機材がなく救出に時間がかかった」こと、市消防局スーパーイーグルこうべ隊の隊長からは「人命救助の流れやそこで使用される機材、レスキュー現場が求めるロボット」などについてお話しがありました。また、筑波大学大学院の桜井尊さんより、「人にやさしい」視点から、人の身体機能や認知機能を支援・増強することを目的に開発されたロボットスーツ「HAL (ハル)」について講演がありました。HALは、すでに福祉施設などで体が不自由な方をサポートする装具として実用化されており、今後、レスキュー現場などへの活用も期待されています。参加者から、HALの安全性や信頼性、レスキュー現場のような過酷な環境への適

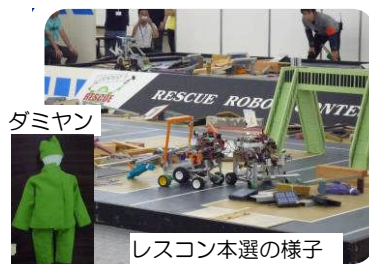


HAL(R)福祉用を装着する桜井さん

応性についての質問もあり、最後に「やさしさが育む科学技術の裾野」を提言の言葉として閉会しました。

翌週の7・8日には、レスコンの本選が行われました。レスコンは、大地震で倒壊した市街地を模した1/6スケールの実験フィールド内で、同時に2チームが、レスキューロボットなどから送られてくる映像をもとに、壁を隔てたコントロールルームからロボットを操作して、ダミー人形(愛称:ダミヤン)を救出するものです。ダミヤンには傷みや苦痛を感じるセンサーが内蔵されており、ガレキの下から、いかにやさしく救出するか、そのアイデア、技術力、チームワークなどを競います。コンテストとはいえ、単なる競争でなく、両チーム間で情報を交換し合い、互いの進路を塞がないようにガレキを撤去し、道を譲り合うなど、「やさしさが育む科学技術」の精神に通じるものを感じました。(詳細は<http://rescue-robot-contest.org/>でご覧になれます。)

また、同時開催された、ミニレスコンの体験イベントを初めとする「あそぼう!まなぼう!ロボットランド」の各ブースも、多くの親子連れで賑わっており、ロボット技術に対する関心の強さが感じられました。



ダミヤン

レスコン本選の様子



ミニレスコン体験イベント

世界団地博覧会 in 明舞 プレイイベント 開催

8月7日に兵庫県内で最も古いニュータウン、明舞団地内の明舞センターで「世界団地博覧会 in 明舞 プレイイベント」が開催されました。

プレイイベントでは明舞団地再生に関わる団体の紹介パネルや昔の団地の写真の展示と、参加者の皆さんで団地の年表を作るワークショップが行われました。兵庫県立大学の学生さんをはじめとするスタッフが、住人の方のお話を聞きながら、団地内での出来事や住人の方の個人的な出来事などを年表に書き込み、年表は次々と埋まっていきました。また、パネル、写真展も買物帰りの親子連れなど幅広い世代の方が集まり、賑わいました。

プレイイベントで集まった貴重な写真や情報などは10月22~24日に同センター周辺にて開催される「世界団地博覧会 本番イベント」でも展示され、団地再生に関するフォーラムや親子で楽しめるイベントも併せて開催される予定です。10月に開催される本番イベントの詳細は、NPO法人神戸まちづくり研究所ホームページ (<http://homepage2.nifty.com/machiken/>) をご覧ください。



ワークショップの様子



次々と埋まっていく年表

お詫び
と訂正

あーばんとーく 8月号(No.156)第3面「山麓リポンの道」を行く」の第14行目に下記のとおり誤りがありました。
お詫びの上、訂正いたします。 (誤) 白加納家→(正) 白嘉納家

北野・山本地区の景観形成

空間像研究会の活動 その16

山本俊貞（空間像研究会）

1. 外国人と共につくってきた北野・山本地区の景観

北野・山本地区は、固有の歴史的環境に恵まれたまちです。明治初期、居留地で働く外国人達は南斜面で温暖なこの地に魅せられ定住しました。彼らが建てた異人館と呼ばれる洋風住宅は広い庭を持ち、和風住宅と混在しながら個性あるまちなみをつくりだしたのです。また日本人と多国籍の外国人が雑居することにより、国際色豊かな独得の居住文化を育んできました。

2. 観光公害に対処するための活動

1977年、NHK連続ドラマ「風見鶏」が放映され、これをきっかけに、それまでの閑静な住宅地に年間150万人を超える観光客が押し寄せます。不法駐車、ゴミ、トイレに代表される観光公害に悩まされた結果、1981年、これに対処するために関係する6自治会と2婦人会、商業者組織が集まって「北野・山本地区をまもり、そだてる会」が設立されます。

3. 行政によるまちなみの保全施策

またその頃、神戸市行政ではこの特徴あるまちなみを保全するための手が打たれます。1989年に約32haの区域が都市景観形成地域に指定され、中でも伝統的な建物等が多く集積している約9haが伝統的建造物群保存地区に決定されます。以後、異人館をはじめとする伝統的な遺産をまもるとともに、この区域内で新たに建物を建築する時などには神戸市に届出や許可申請をすることが義務付けられ、このまちの歴史的風致を一層守り立てるものにするよう、建物の形や意匠等についての助言・指導を受けます。

4. まちに対する視点の広がり

この行政による景観形成施策は法律にも裏打ちされた強固なものです。しかし、建物の表層部などあくまで具体的な形に限定されたもので、真の景観形成にとって魂の入ったものとは言えません。ここで魂を入れるのが、地元におけるまちなみづくり運動や生活文化の醸成などの活動、あるいはまちなみに対する人々の関心です。

先に記しましたように、観光公害に対処するために設立された「まもり、そだてる会」ですが、さまざまな出来事を契機に、その活動は徐々に広がってきました。とりわけ1995年の阪神・淡路大震災を経験して後は、以前にもまして歴史的環境の保全にも積極的に取り組むようになります。観光の中核施設といえる異人館、中でも公開異人館はかつては迷惑施設とも捉えられる面を持っていたのですが、震災で多くの異人館が崩壊の危機にあるのを目の当たりにして、まちのシンボルとしての重要性が見直され、問題なのは異人館ではなく、その公開のあり方だという認識が共有された結果です。そしてこのようにまち全体を視野にいれ、

その視点を共有した上での取り組みが、魂の入った景観づくりを可能にするのです。

5. まちの個性をまもり、そだてるための活動

では「まもり、そだてる会」が行っている特徴的な3つの取り組みをご紹介します。勿論、建物の新築時には事前に相談をしてもらう、あるいは路上に置かれた看板の撤去運動など、まちなみを美しくするための直接的な活動も展開されていますが、その上で、明治以来の国際居住文化を継承・発展させるためのさまざまな活動にも取り組まれています。

①「まちの記憶を引き継ぐ運動」

歴史的な“もの”や“こと”を収集・整理・保存する運動です。散在している歴史的生活用品を保管庫に集めるとともに、古くから住んでいる人に昔の話を伺ったり、シンポジウム形式で歴史的情報を出し合うことをなど通じ、共有を図っています。また、伝統的な建築物や工作物に「伝建銘板」を設置したり、震災を契機に「異人館基金」の創設にも取り組んでいます。

▼ 収集した歴史的建築物の扉や手すり



ガラクタ？
いえいえ、まちにとっては貴重な記憶の1片です。

②「花と緑を増やす運動」

まちを花と緑で覆うために、花苗の全戸に配布し、毎年春、そのシンボルイベントとして“インフィオーラータこうべ北野坂”を開催しています。

③「国際居住文化」の振興活動

まちの状況がよく似ているパリ・モンマルトル地区と友好提携を結んだり、インフィオーラータを通じてその本場イタリア・ジェンツァーノ市と交流を図るなど、さまざまな国際交流を通じ、これからの居住文化のあり方を探っています。



▲モンマルトル地区との友好提携銘板。北野町広場に張ってあります。

6. まちの営みが結実して生まれる「景観」

まちの景観は単に目に見えるものだけで形づくられるものではありません。音、匂い、そして何よりも人々のまちに対する思いが大きく作用します。つまり、景観とはそのまちに住み、働く人々の日々の活動が形として結実した結果であり、まちの営みと共に変化を続けていくのです。

発信!!まちセン研究ネット⑬ いきいき下町推進協議会

『いきいき下町推進協議会（いき下協）』は建築関係団体、地域住民団体、行政関係団体等を構成員として、下町の地域特性をふまえた「すまい・まちづくり」に関する情報交換、啓発、調査・研究、提案を行うことを目的として、1992年7月に発足しました。その活動は今年で19年目を迎え、これまで、震災復興のまちづくりをはじめ、時代の要請に応じて、あるいは時代を先取りして、さまざまな取組を支援・実践しています。

そのなかで、いき下協は、基本的には「後衛」の位置づけのもと、実働部隊としての機動性も求められており、その代表的なものが神戸市との協働による「まちづくり・まち歩き実践ゼミ」と「こうべ楽座&夜市ーわがまちを語る会」の取組で、毎年、企画内容や開催方法等にさまざまな工夫を凝らしながらまちづくり団体の交流や人材育成の支援を継続しています。



「わがまちを語る会」の様子

また、20年目を迎える来年を目標に、まちづくりの専門家を表彰する顕彰事業として、「(仮称) いきいき下町大賞」の創設もめざしており、今後とも『いきいき下町推進協議会』は「まちづくり精神の醸成」を一貫した基本理念として、より広い視野からまちづくり支援の新たな途を開拓し、まさに「いきいきしたまちづくり」を支援していきたいと考えています。

(運営委員長・上山 卓)

まちづくり会館 展示のお知らせ

1 階オープンギャラリーの予定

期 間	テーマ・内容	主催者
9/2(木) ~ 9/14(火)	下水道の適正利用・こうべバイオガス	神戸市建設局
9/16(木) ~ 9/28(火)	日本で最も安全なすまいのまち“神戸”をめざして	神戸市都市計画総局
9/30(木) ~ 10/12(火)	防犯啓発パネル展	神戸市危機管理室
10/14(木) ~ 10/26(火)	東南海・南海地震に備えてくパネル展	神戸市危機管理室
10/28(木) ~ 11/7(日)	悪質商法く生活情報センターパネル展	神戸市市民参画推進局

※展示期間が変更になる場合があります。

地階ギャラリーの予定

期 間	テーマ・内容	主催者
9/3(金) ~ 9/7(火)	劉 素真と神戸墨酔会 水墨画展	神戸墨酔会
9/9(木) ~ 9/14(火)	デジタル書作家協会展<デジタル書道>	デジタル書作家協会
9/16(木) ~ 9/21(火)	森の会展<油彩・水彩等>	森の会
9/23(木) ~ 9/28(火)	第43回 兵庫倶楽部 写真会 写真展	兵庫倶楽部写真会
9/30(木) ~ 10/5(火)	きんもくせいのか 絵画展<水彩・パステル>	きんもくせいのか
10/7(木) ~ 10/12(火)	チェリーの会展<油彩・水彩等>	チェリーの会
10/15(金) ~ 10/19(火)	第3回みなと銀行福友会 会員展<油彩・水彩等>	みなと銀行福友会
10/22(金) ~ 10/26(火)	第28回 帆船模型作品展	神戸帆船模型の会
10/29(金) ~ 11/2(火)	第2回 墨咲会 水墨画・墨彩画展	墨咲会

※初日、最終日は展示時間が変更になる場合があります。



こうべまちづくり会館

開館時間：午前9時30分～午後6時（水曜日休館）
場 所：元町商店街4丁目西端の南側角
地下鉄海岸線「みなと元町駅」西1出口から北へ1分
神戸高速「花隈駅」東口から南へ3分
「西元町」東口から東へ5分
JR・阪神「元町駅」西口から西へ8分
〒650-0022 神戸市中央区元町通4丁目2-14
電話：078-361-4523 FAX：078-361-4546
ホームページ <http://www.kobe-toshi-seibi.or.jp>

コミュニティ相談センター（まちづくり会館4F）

自治会の会報等の印刷サービス、運営等の相談
受付：午前9時30分～午後5時30分（水曜日休館）
ただし、印刷は5時まで
電話・FAX：078-361-4565

4月から、まちづくり会館の開館時間が午前9時30分となりました！